

ANAホールディングス株式会社 説明会

2025年3月期 第3四半期決算

2025年2月3日

取締役 常務執行役員
グループCFO
中堀 公博



- ① 本日はお忙しい中、決算説明会にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。
- ② 最初に、スライドの3ページをご覧ください。

目次

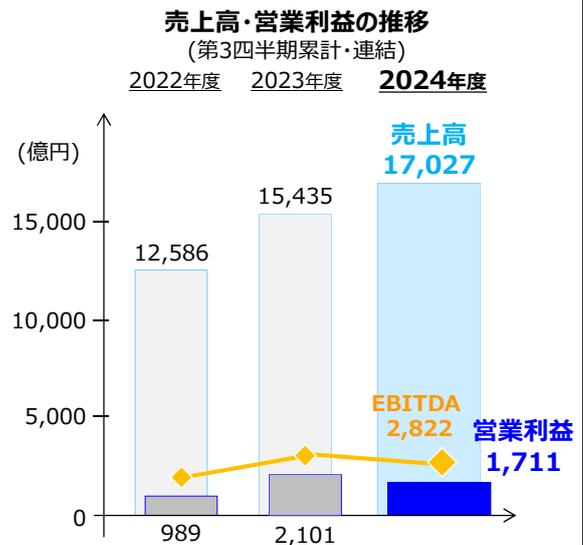
2024年度 第3四半期決算

<u>1. 決算概要・業績予想の修正</u>		<u>3. 航空事業</u>	
決算概要（第3四半期累計）	P. 3	収入・費用	P. 15
決算概要（第3四半期）	P. 4	営業利益 増減要因	P. 16
事業別のポイント	P. 5	ANA国際旅客	P. 17-20
航空事業・事業別の需要動向	P. 6	ANA国内旅客	P. 21-22
通期業績予想（修正）	P. 7	ANA国際貨物	P. 23-25
セグメント別計画（修正）	P. 8	ANA国内貨物	P. 26
航空事業 売上・費用計画（修正）	P. 9	Peach Aviation	P. 27-28
今後に向けて	P. 10	AirJapan	P. 29-30
		ANA国際線 方面別実績（構成比）	P. 31-32
<u>2. 連結決算（詳細）</u>		燃油・為替ヘッジの進捗状況（ANA）	P. 33
経営成績	P. 11	航空機数	P. 34
財政状態	P. 12		
キャッシュフロー	P. 13	<u>4. ノンエア事業</u>	
セグメント別実績	P. 14	航空事業以外のセグメント	P. 35

決算概要 (第3四半期累計)

2024年度 第3四半期決算 (4-12月、連結)

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	17,027	+1,592	+10.3%
航空事業	15,517	+1,435	+10.2%
営業費用	15,316	+1,981	+14.9%
航空事業	13,803	+1,757	+14.6%
営業利益	1,711	△389	△18.5%
航空事業	1,714	△321	△15.8%
営業利益率	10.1%	△3.6pt	-
経常利益	1,815	△255	△12.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,340	△149	△10.0%
EBITDA	2,822	△342	△10.8%



売上高 : 旅客・貨物ともに着実に需要を取り込み、前年から増加
 営業費用 : 円安の影響などにより、整備費を中心に前年から増加
 営業利益 : 2024年10月末に開示した通期の計画を超過

- ① 第3四半期決算の概要について、ご説明します。
- ② **売上高**は、旅客、貨物ともに着実に需要を取り込み、前年から1,592億円、10.3パーセント増加の、1兆7,027億円となりました。
- ③ **営業利益**は、前年から389億円減少し、1,711億円となりました。円安の影響などで費用が増加し、前年からは減益となりましたが、昨年10月末に開示した通期の計画を超過しました。
- ④ **親会社株主に帰属する四半期純利益**は、1,340億円となりました。
- ⑤ 4ページをご覧ください。

決算概要 (第3四半期)

2024年度 第3四半期 (10-12月のみ、連結)

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	6,031	+623	+11.5%
航空事業	5,506	+556	+11.2%
営業費用	5,404	+799	+17.4%
航空事業	4,885	+693	+16.5%
営業利益	627	△175	△21.9%
航空事業	621	△137	△18.1%
営業利益率	10.4%	△4.5pt	-
経常利益	692	△105	△13.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	532	△24	△4.5%
EBITDA	1,003	△159	△13.7%

前年差の概要

- 1) 売上高 : 四半期ベースで過去最高を更新
- 2) 営業費用 : 整備費や人件費が増加

計画差の概要

営業利益 +70億円

<主な売上・費用の計画差>

- ① 国際旅客 +100億円 欧米線好調
- ② 国内旅客 +115億円 レジャー好調
- ③ 貨物郵便 △25億円 重量未達
- ④ 整備費 +105億円 円安・整備機会増

営業利益は前年から減益も、計画を上回って進捗

- ① こちらは、10月から12月の第3四半期単独の決算概要です。
- ② 当第3四半期の**営業利益**は627億円となり、前年から175億円の減益となりましたが、四半期の計画を70億円上回りました。
- ③ 主な計画差の要因は、国際旅客収入で100億円、国内旅客収入で115億円、それぞれ計画を上回った一方で、貨物郵便収入は25億円、計画を下回りました。
- ④ また、整備費は円安影響や整備機会の増加などにより、105億円、計画を上回りました。
- ⑤ 5ページをご覧ください。

事業別のポイント (第3四半期)

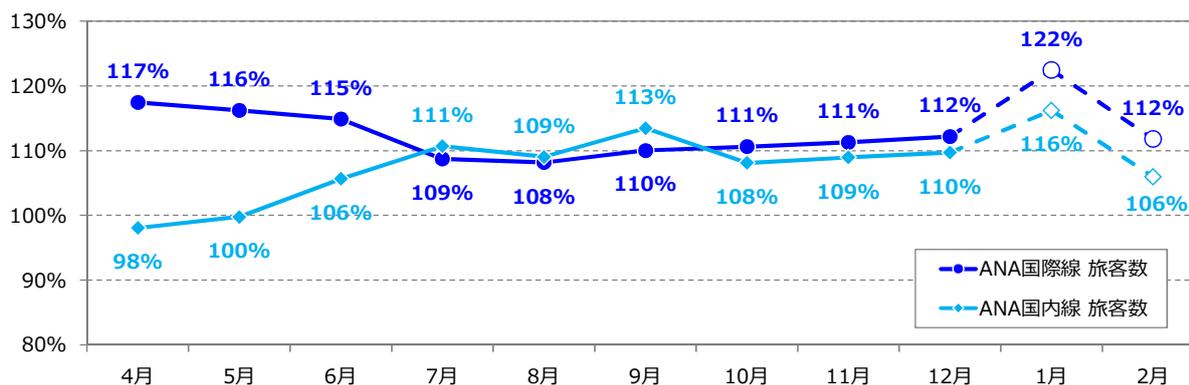
	第3四半期の概況	収入前年比(差)	主な指標 (前年比)
			
国際旅客	訪日・日本発を中心に生産量の増加ペースを上回る需要を獲得 イールドは前年から低下も、高い水準が継続	+9% (+182億円)	旅客キロ +12% イールド △2%
国内旅客	単価を前年並みに維持しながら、需要を最大限取り込み 座席利用率・ユニットレベニューは過去最高水準で推移	+9% (+150億円)	L/F(実績) 77% 単価 △0%
国際貨物	中国発のEコマースや三国間需要が好調に推移 エアラインチャーターを活用し、北米向けの高単価貨物を獲得	+23% (+102億円)	貨物重量 +6% 単価 +16%
	国際線・国内線ともに旅客数は前年からやや減少	△5% (△18億円)	旅客数 △5% 単価 △0%
	販売競争力を強化し、座席利用率が大幅に改善	36億円 (実績)	L/F(実績) 82%

- ① 当第3四半期における事業別のポイントについてご説明します。
- ② **ANA国際旅客**では、生産量の増加ペースを上回る需要を獲得しました。
イールドは前年から2パーセント低下しましたが、依然として高い水準が継続しています。
- ③ **ANA国内旅客**は、単価を前年並みに維持しながら需要を最大限取り込み、
前年から9パーセントの増収となりました。
また、座席利用率とユニットレベニューは第3四半期単独として過去最高水準となりました。
- ④ **ANA国際貨物**は、中国発のEコマースや、北米向けの三国間貨物が好調に推移しました。
エアラインチャーターも活用しながら、高単価貨物を取り込んだ結果、
収入は23パーセント増加しました。
- ⑤ **Peach**は、需給バランスの変化などにより、旅客数は前年をやや下回りました。
- ⑥ **AirJapan**は、販売競争力を強化した結果、
座席利用率は第2四半期の58パーセントから、82パーセントへ大幅に改善しました。
- ⑦ 続きまして、6ページをご覧ください。

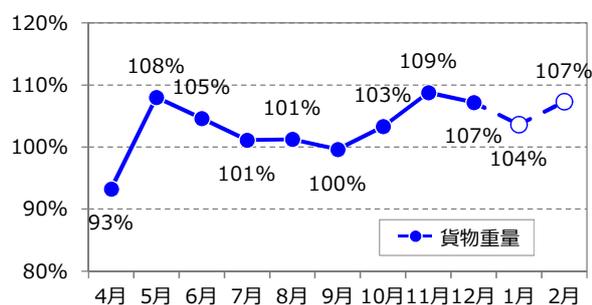
航空事業・事業別の需要動向（前年との比較）

1. ANA国際旅客・国内旅客

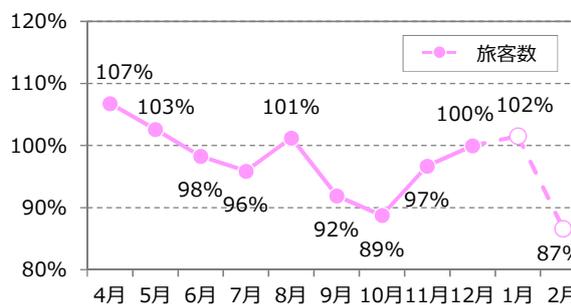
* グラフは全て前年比(月別)



2. ANA国際貨物



3. Peach (国際線・国内線合計)



©ANAHD2025

6

① 事業別の需要動向です。

なお、昨年がうるう年だった影響で、各事業の2月の前年比は、実態よりも低く見えています。

② 1番の**ANA国際旅客**は、中国の春節時期が前年と異なるため、

1月と2月の前年比に波がありますが、需要は堅調に推移すると見通しています。

ANA国内旅客も、第3四半期と同様の基調が続く見込みです。

③ 2番の**ANA国際貨物**は、1月から低需要期に入り、中国発の貨物が減少していますが、

春節明けの需要の取り込みを強化していきます。

④ 3番の**Peach**は、国際線が前年並みで推移する一方、

国内線は前年を下回って推移する見通しです。

⑤ 7ページをご覧ください。

通期業績予想 (修正)

2024年度 通期業績予想の修正 (連結)

(億円)	前回修正 (24.10.31)	今回修正 (25.2.3)	差異
売上高	22,200	22,550	+350
航空事業	20,150	20,500	+350
営業利益	1,700	1,800	+100
航空事業	1,710	1,800	+90
営業利益率	7.7%	8.0%	+0.3pt
経常利益	1,700	1,900	+200
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,200	1,400	+200
EBITDA	3,185	3,290	+105

修正のポイント

- 1) 売上高
国際線・国内線ともに旅客需要が堅調
- 2) 営業費用
円安影響、整備機会の増加など
- 3) 営業外収益
機材・エンジン関連の補償を受領

通期業績予想を上方修正
(第4四半期の見直しも反映)

市況	前回 (下期修正)	今回 (第4四半期)
為替レート (円/US\$)	145	155
ドバイ原油 (US\$/bbl)	80	75
シンガポールケロシン (US\$/bbl)	100	90

©ANAHD2025

7

- ① 通期業績予想の修正について、ご説明します。
- ② 売上高では、国際線・国内線の旅客需要が堅調に推移していること、営業費用は、円安の影響や整備機会の増加などにより、それぞれ計画を上回る見通しです。また、営業外収益は、機材・エンジン関連の補償を受領したことなどにより、計画から増加する見込みです。
- ③ 第4四半期の直近見直しもふまえて、あらためて年度見通しを精査した結果、通期の業績予想を上方修正することとしました。
- ④ 売上高は2兆2,550億円、営業利益は1,800億円、経常利益は1,900億円、親会社株主に帰属する当期純利益は1,400億円とし、それぞれ10月末に開示した計画から増額します。
- ⑤ 10ページをご覧ください。

セグメント別 計画 (修正)

(億円)		FY2023	FY2024 今回修正予想	前年差	FY2024 前回修正予想*
売上高	航空事業	18,695	20,500	+ 1,804	20,150
	航空関連事業	2,988	3,270	+ 281	3,270
	旅行事業	785	760	△ 25	760
	商社事業	1,179	1,320	+ 140	1,320
	その他	412	450	+ 37	450
	調整額	△ 3,501	△ 3,750	△ 248	△ 3,750
	合計 (連結)	20,559	22,550	+ 1,990	22,200
営業利益	航空事業	2,079	1,800	△ 279	1,710
	航空関連事業	67	45	△ 22	65
	旅行事業	13	0	△ 13	0
	商社事業	45	50	+ 4	50
	その他	5	15	+ 9	5
	調整額	△ 133	△ 110	+ 23	△ 130
	合計 (連結)	2,079	1,800	△ 279	1,700

* 2024年10月31日開示の業績予想

航空事業 売上高・営業費用 計画 (修正)

(億円)		FY2023	FY2024 今回修正予想	前年差	FY2024 前回修正予想*
売上高	国際旅客	7,281	8,000	+ 718	7,800
	ANA 国内旅客	6,449	7,010	+ 560	6,820
	貨物郵便	1,857	2,180	+ 322	2,290
	その他	1,713	1,800	+ 86	1,720
	Peach・AirJapan	1,393	1,510	+ 116	1,520
	合計	18,695	20,500	+ 1,804	20,150
営業費用	燃油費・燃料税	3,913	4,190	+ 276	4,230
	燃油費・燃料税 以外	12,701	14,510	+ 1,808	14,210
	合計	16,615	18,700	+ 2,084	18,440
営業利益	営業利益	2,079	1,800	△ 279	1,710

* 2024年10月31日開示の業績予想

今後に向けて

1. 2025年度 ANAグループ航空輸送事業計画 (2025年1月21日リリース)

ANA	事業計画のポイント	座席キロ	
		(前年比)	(CY19比)
国際旅客	2024年度末のネットワーク・運航便数を維持 欧州新規路線の通年化などにより、生産量は前年から増加	106%	88%
国内旅客	機材の小型化により生産量は前年から減少 (B787型機の国際線配置、A320/321neo型機の稼働復帰)	98%	91%

※Peachは国際線の拡大を検討中、AirJapanは2025年度中に3号機目を導入予定

2. 機材関連のアップデート

	事象	直近の状況
PW1100Gエンジン (A320/321neo)	エンジン部品の点検・改修指示に対応	非稼働機数は徐々に減少 (FY24末 非稼働機数：計画13機 → 最新見通し11機)
Trent1000エンジン (B787)	部品交換のための取り卸しが増加	部品の供給不足により稼働機の逼迫が続く見込み
ボーイング新造機の 受領時期	当初、2025年度に11機を受領予定	一部機材の受領が2026年度となる見通し

事業規模のさらなる拡大に向けて、機材確保の調整を継続

- ① 今後の事業環境の見通しについて、ご説明します。
- ② まず、1月21日に発表した、2025年度の事業計画についてです。
ANA国際旅客では、2024年度末のネットワークと運航便数を維持する方針です。
 欧州新規路線の通年化などにより、座席キロは今期から約6パーセントの増加を計画します。
ANA国内旅客は、機材の小型化により、座席キロは約2パーセント減少する計画です。
- ③ 次に、機材関連の直近の状況についてです。
1点目のPWエンジンは、部品の点検・改修指示に引き続き対応しており、
 エアバスA320・321neo型機の非稼働機数は徐々に減少しています。
- ④ **2点目のTrentエンジン**について、部品交換のためのエンジンの取り卸しが増加しており、
 今後もボーイング787型機の稼働逼迫が続くと見通しています。
- ⑤ **3点目のボーイング新造機の受領時期**については、ボーイング社の生産遅延などにより、
 2025年度に受領を予定している11機のうち、一部機材の受領が2026年度になる見通しです。
- ⑥ 今後も、事業規模の更なる拡大に向けて、機材確保の調整を継続していきます。
- ⑦ 続いて、11ページをご覧ください。

経営成績

(億円)	FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年差	FY2024 第3四半期	前年差
売上高	15,435	17,027	+ 1,592	6,031	+ 623
営業費用	13,334	15,316	+ 1,981	5,404	+ 799
営業利益	2,101	1,711	△ 389	627	△ 175
営業利益率 (%)	13.6	10.1	△ 3.6pt	10.4	△ 4.5pt
営業外損益	△ 29	104	+ 134	64	+ 69
経常利益	2,071	1,815	△ 255	692	△ 105
特別損益	△ 4	△ 32	△ 27	△ 34	△ 34
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,489	1,340	△ 149	532	△ 24
四半期純利益	1,498	1,347	△ 150	537	△ 24
その他包括利益	28	△ 58	△ 87	390	+ 877
包括利益	1,526	1,288	△ 238	927	+ 853

- ① ここから、連結決算の詳細についてご説明します。
お示しているスライドは冒頭の内容と重複するため、説明は割愛いたします。
- ② 12ページをご覧ください。

財政状態

(億円)	FY2023 期末	FY2024 第3四半期末	前年度 期末差
総資産	35,695	35,822	+ 127
自己資本	10,445	11,397	+ 952
自己資本比率 (%)	29.3	31.8	+ 2.6pt
有利子負債残高	14,840	13,595	△ 1,244
D/ELシオ (倍)	1.4	1.2	△ 0.2
手元流動性資金 *1	12,578	12,214	△ 363
純有利子負債残高 *2	2,262	1,380	△ 881
ネットD/ELシオ (倍) *3	0.2	0.1	△ 0.1

*1 手元流動性資金 = 現金及び預金 + 有価証券

*2 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - 手元流動性資金

*3 ネットD/ELシオ = 純有利子負債 ÷ 自己資本

- ① 財政状態です。
- ② 総資産は3兆5,822億円、自己資本は1兆1,397億円、自己資本比率は31.8パーセントとなりました。
- ③ また、有利子負債は1兆3,595億円、手元流動性資金は1兆2,214億円となったことから、純有利子負債をベースとした、ネットデット・エクイティ・レシオは、0.1倍となりました。
- ④ 13ページをご覧ください。

キャッシュフロー

(億円)	FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	3,229	2,631	△ 597
投資キャッシュフロー	△ 3,513	△ 4,330	△ 817
財務キャッシュフロー	△ 891	△ 1,585	△ 694
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,154	△ 3,254	△ 2,100
現金及び現金同等物の期首残高	11,134	10,025	} △ 3,254
現金及び現金同等物の期末残高	9,980	6,770	
減価償却費	1,063	1,110	+ 46
設備投資額 (固定資産のみ)	1,496	1,557	+ 61
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の譲渡性預金等を除く)	2,023	1,192	△ 831
EBITDA (営業利益 + 減価償却費)	3,164	2,822	△ 342
EBITDAマージン (%)	20.5	16.6	△ 3.9pt

- ① キャッシュフローです。
- ② 営業キャッシュフローは、2,631億円の収入
投資キャッシュフローは、4,330億円の支出、
財務キャッシュフローは、1,585億円の支出となりました。
- ③ また、実質フリーキャッシュフローは、1,192億円の収入となりました。
- ④ 14ページをご覧ください。

セグメント別実績

(億円)	FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年差	FY2024 第3四半期	前年差	
売上高	航空事業	14,081	15,517	+ 1,435	5,506	+ 556
	航空関連事業	2,092	2,432	+ 340	858	+ 131
	旅行事業	592	549	△ 42	183	△ 13
	商社事業	867	975	+ 108	333	+ 39
	その他	287	321	+ 33	112	+ 12
	調整額	△ 2,485	△ 2,767	△ 282	△ 963	△ 103
	合計(連結)	15,435	17,027	+ 1,592	6,031	+ 623
営業利益	航空事業	2,036	1,714	△ 321	621	△ 137
	航空関連事業	96	37	△ 58	7	△ 45
	旅行事業	13	△ 1	△ 14	5	+ 2
	商社事業	42	39	△ 3	12	△ 3
	その他	7	10	+ 3	5	△ 1
	調整額	△ 94	△ 89	+ 5	△ 23	+ 9
	合計(連結)	2,101	1,711	△ 389	627	△ 175

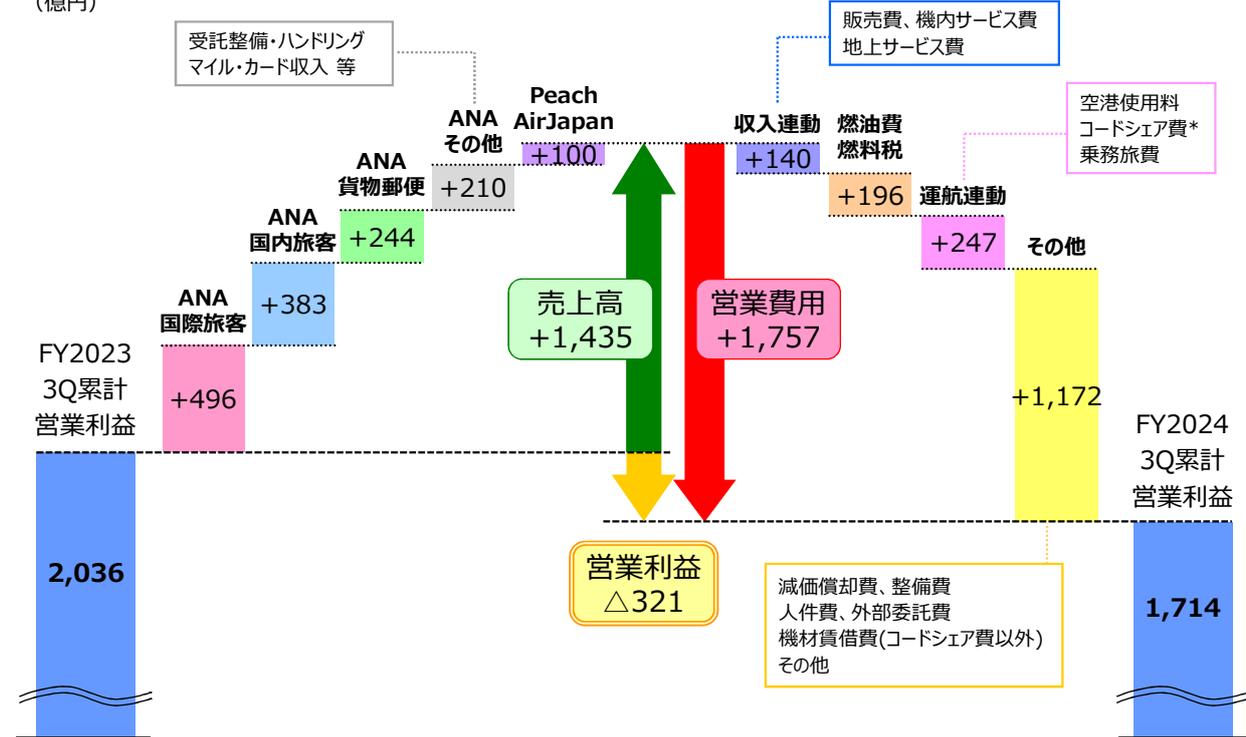
- ① セグメント別の実績です。
- ② 航空関連事業では、空港ハンドリングなどの受託が増えたことで増収となりましたが、システム関連費用の増加などにより減益となりました。
- ③ 旅行事業は、第3四半期単独では、宣伝費などのコスト抑制により、黒字を確保しました。
- ④ 商社事業は、空港リテール事業が引き続き好調ですが、電子事業の収益性が低下したことなどにより減益となりました。
- ⑤ 16ページをご覧ください。

収入・費用

(億円)		FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年差	FY2024 第3四半期	前年差
売上高	国際旅客	5,515	6,012	+ 496	2,111	+ 182
	ANA 国内旅客	4,965	5,349	+ 383	1,887	+ 150
	貨物郵便	1,421	1,665	+ 244	628	+ 101
	その他	1,168	1,378	+ 210	523	+ 102
	Peach・AirJapan	1,010	1,110	+ 100	355	+ 18
	合計	14,081	15,517	+ 1,435	5,506	+ 556
営業費用	燃油費・燃料税	2,902	3,098	+ 196	1,037	+ 12
	空港使用料	641	817	+ 175	282	+ 59
	航空機材賃借費	1,122	1,139	+ 16	395	+ 17
	減価償却費	1,021	1,065	+ 43	359	+ 14
	整備部品・外注費	1,221	1,769	+ 548	739	+ 296
	人件費	1,502	1,720	+ 218	608	+ 97
	販売費	406	457	+ 50	155	+ 18
	外部委託費	1,863	2,158	+ 294	762	+ 111
	その他	1,362	1,577	+ 214	543	+ 65
		合計	12,045	13,803	+ 1,757	4,885
営業利益	営業利益	2,036	1,714	△ 321	621	△ 137
	EBITDA (営業利益+減価償却費)	3,058	2,779	△ 278	980	△ 122
	EBITDAマージン (%)	21.7	17.9	△ 3.8pt	17.8	△ 4.5pt

営業利益 増減要因

(億円)



©ANAHD2025

* 貨物エアラインチャーター費用を含む

16

- ① 航空事業における、営業利益の前年比較です。
- ② **売上高**は、すべての事業で前年の実績を上回り、全体で1,435億円の増加となりました。
- ③ **営業費用**は、円安の影響に加えて、人財への投資やエンジン整備機会の増加などにより、前年から1,757億円増加しました。
- ④ これらの結果、営業利益は321億円減少し、1,714億円となりました。
- ⑤ 18ページをご覧ください。

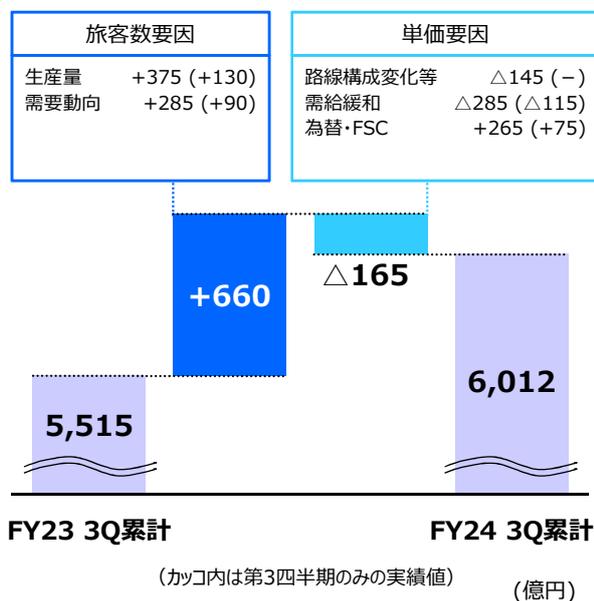
ANA国際旅客

	FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年比(%)	FY2024 第3四半期	前年比(%)
座席キロ (百万)	39,512	43,051	+ 9.0	14,780	+ 8.6
旅客キロ (百万)	30,844	33,796	+ 9.6	11,764	+ 11.9
旅客数 (千人)	5,310	5,946	+ 12.0	2,047	+ 11.3
座席利用率 (%)	78.1	78.5	+0.4pt*1	79.6	+2.3pt*1
旅客収入 (億円)	5,515	6,012	+ 9.0	2,111	+ 9.4
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キロ)	14.0	14.0	+ 0.0	14.3	+ 0.8
イールド (円) (旅客収入/旅客キロ)	17.9	17.8	△ 0.5	17.9	△ 2.2
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	103,864	101,116	△ 2.6	103,111	△ 1.7

*1 座席利用率のみ前年差

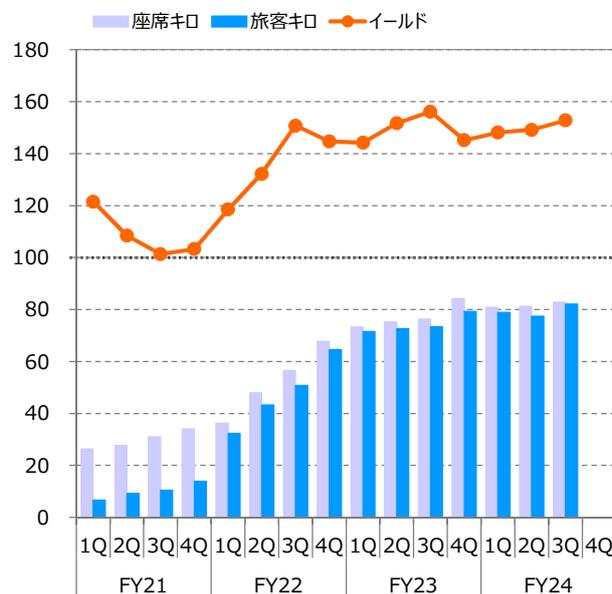
ANA国際旅客（事業動向）

第3四半期累計 収入増減要因（前年差）



四半期別 実績推移

指数：コロナ前（2019年1～12月）各四半期実績=100



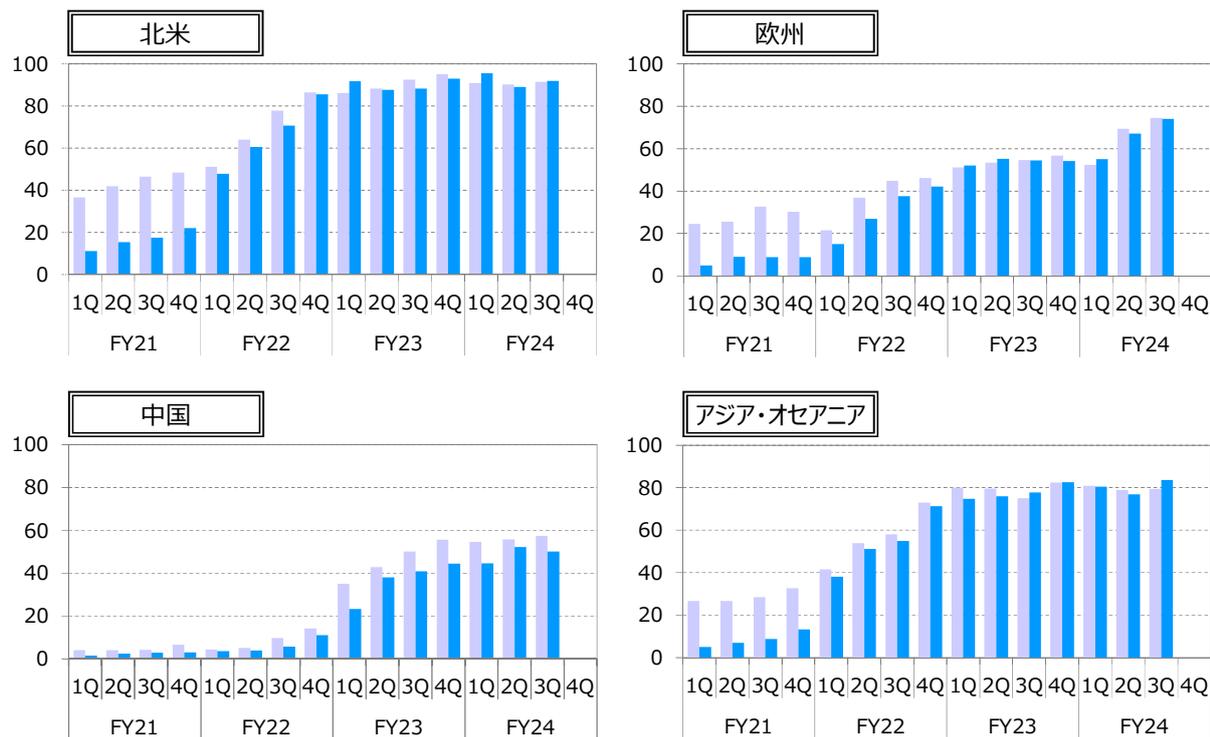
* 2019年の実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

- ① ANA国際旅客の状況です。
左側は、第3四半期累計の増収額496億円の要因分析です。
- ② 旅客数要因では、日本発・海外発の二国間需要を中心に取り込み、660億円の増収となりました。
- ③ 単価要因では、需給バランス緩和の影響などにより、前年から165億円の減収となりました。
- ④ 続いて、19ページをご覧ください。

ANA国際旅客（四半期別・方面別 推移）

指数：コロナ前（2019年1～12月）各四半期実績=100

■：座席キロ ■：旅客キロ



* 2019年の実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

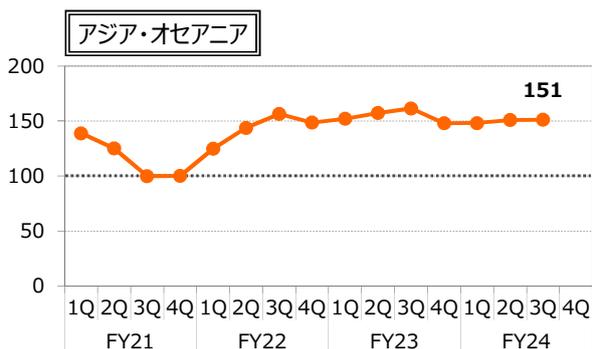
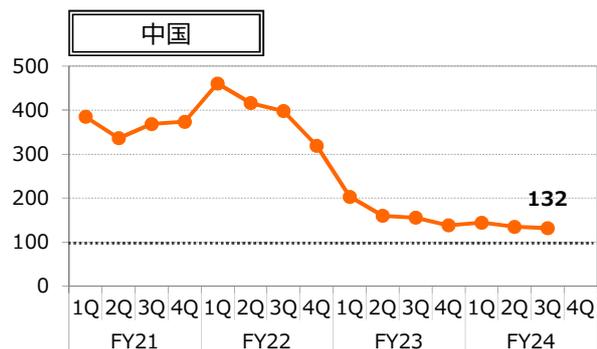
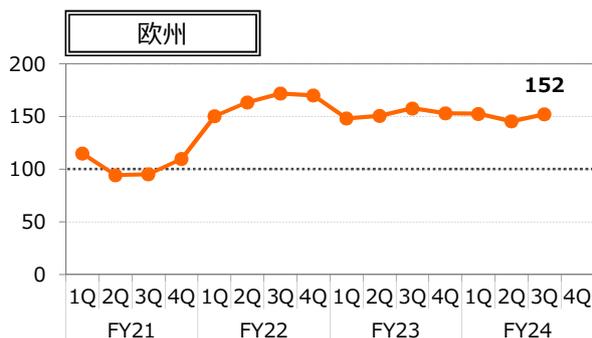
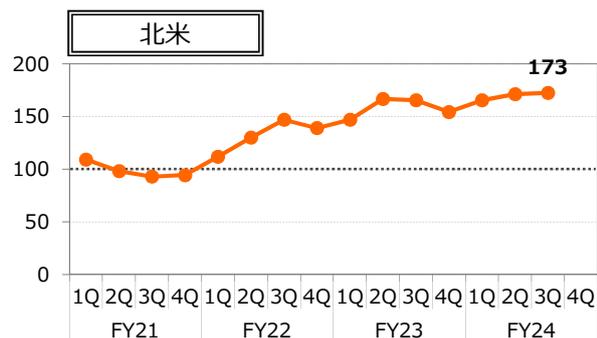
©ANAHD2025

19

- ① 方面別の第3四半期の状況です。
- ② 北米線は、訪日客や日本発を中心に需要が好調に推移し、8割を超える座席利用率となりました。
- ③ 欧州線は、12月から羽田－ミラノ線を開設するなど、座席キロを前年から36%拡大しましたが、生産量に連動して旅客数が増加しました。
- ④ 中国線は、訪日需要は堅調ですが、市場全体の供給量も増加しています。昨年11月末に日本人の短期ビザが免除となったため、今後の日本発需要の動向を注視していきます。
- ⑤ アジア線は、海外エアラインの供給拡大で競争が激化する中、需要を喚起しながら旅客数の獲得に努めました。
- ⑥ 20ページをご覧ください。

ANA国際旅客（方面別 イールド推移）

指数：コロナ前（2019年1～12月）各四半期実績=100



* 2019年の実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

©ANAHD2025

20

- ① 方面別のイールド推移です。
- ② 当第3四半期は、全てのエリアで引き続き高いイールドを維持しています。
北米線と欧州線では、計画を上回って好調に推移した一方、
中国線とアジア線は、需給バランスの緩和に伴い、計画を下回って推移しました。
- ③ 続いて22ページをご覧ください。

ANA国内旅客

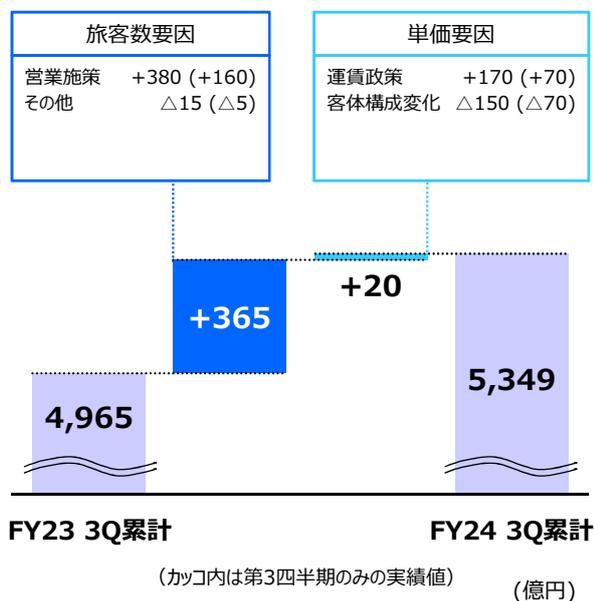
	FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年比(%)	FY2024 第3四半期	前年比(%)
座席キロ (百万) *1	34,963	35,421	+ 1.3	12,035	+ 3.5
旅客キロ (百万) *1	24,622	26,609	+ 8.1	9,262	+ 10.0
旅客数 (千人)	31,091	33,324	+ 7.2	11,645	+ 8.9
座席利用率 (%) *1	70.4	75.1	+4.7pt*2	77.0	+4.5pt*2
旅客収入 (億円)	4,965	5,349	+ 7.7	1,887	+ 8.7
ユニットレベニュー (円) *1 (旅客収入/座席キロ)	14.2	15.1	+ 6.3	15.7	+ 5.0
イールド (円) *1 (旅客収入/旅客キロ)	20.2	20.1	△ 0.3	20.4	△ 1.2
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	15,972	16,053	+ 0.5	16,207	△ 0.2

*1 当年度より国内線の区間距離の定義を大圏距離に変更 (前年実績にも変更を反映)

*2 座席利用率のみ前年差

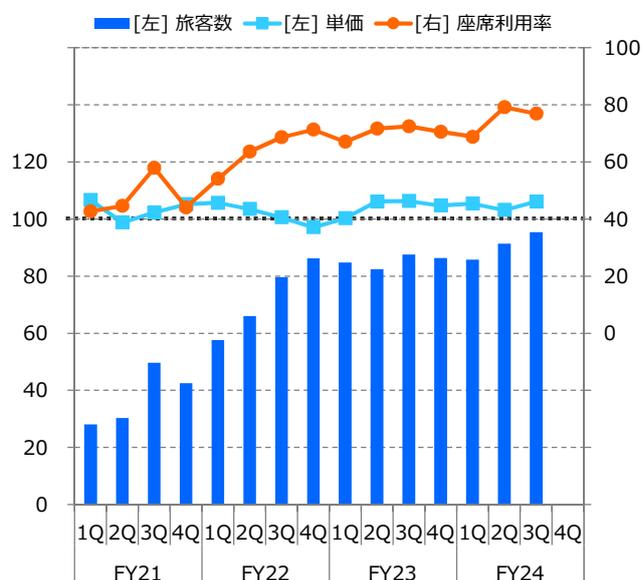
ANA国内旅客（事業動向）

第3四半期累計 収入増減要因（前年差）



四半期別 実績推移

[左] 指数 (コロナ前 (2019年1~12月) 各四半期実績=100)
 [右] 実績 (%)



* 2019年の実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

* 座席利用率は区間距離の定義を大圏距離に置き換えて算定

- ① ANA国内旅客の状況です。
第3四半期累計の増収額、383億円の要因分析です。
- ② 旅客数要因では、低需要便を中心に早期の需要獲得に取り組んだことで、前年から365億円の増収となりました。
- ③ 単価要因は、レジャー需要の構成比が拡大した一方で、昨年3月末からの値上げの効果などにより、20億円の増収となりました。
- ④ 25ページをご覧ください。

ANA国際貨物（ペリー+フレイター）

	FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年比(%)	FY2024 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	4,768	4,843	+ 1.6	1,678	+ 4.4
有償貨物トンキロ（百万）	2,620	2,715	+ 3.6	945	+ 6.6
貨物輸送重量（千トン）	517	532	+ 2.9	184	+ 6.4
貨物重量利用率（%）	55.0	56.1	+1.1pt*1	56.3	+1.2pt*1
貨物収入（億円）	1,191	1,432	+ 20.3	544	+ 23.0
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	25.0	29.6	+ 18.4	32.5	+ 17.9
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	45.4	52.8	+ 16.1	57.7	+ 15.4
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	230	269	+ 16.9	295	+ 15.7

*1 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国際貨物（フレイターのみ）

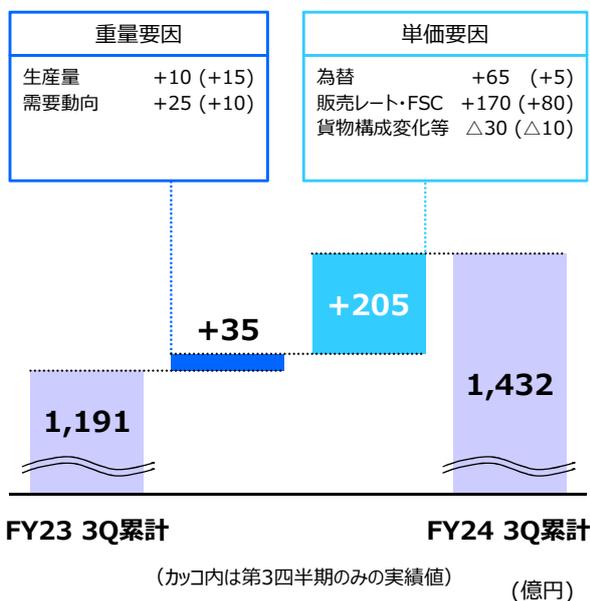
本表のデータは、P.23記載実績の内数

	FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年比(%)	FY2024 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	1,368	1,324	△ 3.2	476	△ 0.5
有償貨物トンキロ（百万）	880	868	△ 1.4	314	+ 0.7
貨物輸送重量（千トン）	220	210	△ 4.2	73	△ 2.0
貨物重量利用率（%）	64.4	65.6	+1.2pt*1	66.0	+0.8pt*1
貨物収入（億円）	476	553	+ 16.2	220	+ 20.1
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	34.8	41.8	+ 20.1	46.3	+ 20.8
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	54.0	63.7	+ 17.9	70.2	+ 19.3
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	216	262	+ 21.3	299	+ 22.6

*1 貨物重量利用率のみ前年差

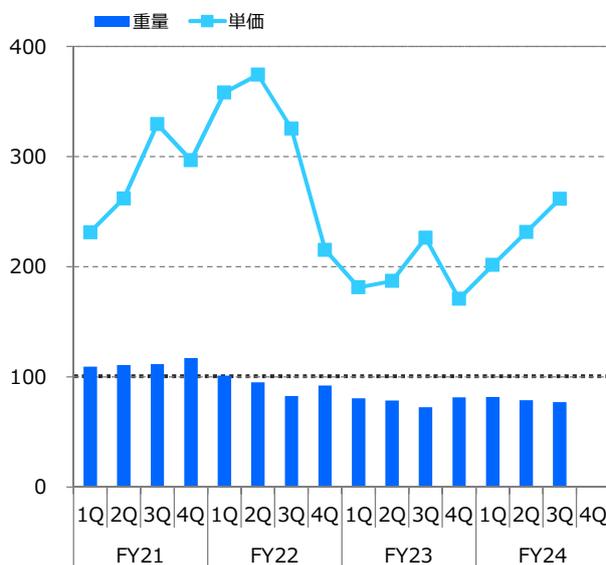
ANA国際貨物（事業動向）

第3四半期累計 収入増減要因（前年差）



四半期別 実績推移

指数：コロナ前（2019年1～12月）各四半期実績=100



- ANA国際貨物の状況です。
第3四半期累計の増収額、241億円の要因分析です。
- 重量要因では、アジア・中国発北米向けの三国間貨物を積極的に取り込み、35億円の増収となりました。
- 単価要因では、北米向けの高単価貨物を積極的に取り込んだことで、前年から205億円の増収となりました。
右のグラフでお示した通り、昨年度の後半以降、単価のコロナ前比は改善基調が続いています。
- 28ページをご覧ください。

ANA国内貨物

	FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年比(%)	FY2024 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ (百万) *1	1,089	1,173	+ 7.7	392	+ 9.1
有償貨物トンキロ (百万) *1	189	202	+ 6.7	73	+ 6.8
貨物輸送重量 (千トン)	193	209	+ 8.5	77	+ 8.1
貨物重量利用率 (%) *1	17.4	17.3	△0.2pt*2	18.7	△0.4pt*2
貨物収入 (億円)	172	175	+ 2.0	63	+ 1.0
ユニットレベニュー (円) *1 (貨物収入/有効貨物トンキロ)	15.8	15.0	△ 5.3	16.2	△ 7.4
イールド (円) *1 (貨物収入/有償貨物トンキロ)	90.6	86.6	△ 4.4	86.4	△ 5.4
重量単価 (円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	89	84	△ 6.0	82	△ 6.5

*1 当年度より国内線の区間距離の定義を大圏距離に変更 (前年実績にも変更を反映)

*2 貨物重量利用率のみ前年差

Peach Aviation

(国内線・国際線合計)	FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年比(%)	FY2024 第3四半期	前年比(%)
座席キロ (百万) *1	9,169	9,421	+ 2.7	3,187	+ 1.6
旅客キロ (百万) *1	7,892	7,996	+ 1.3	2,616	△ 2.7
旅客数 (千人)	7,042	6,880	△ 2.3	2,238	△ 5.2
座席利用率 (%) *1	86.1	84.9	△1.2pt*2	82.1	△3.7pt*2
売上高 (億円) *3	1,010	1,031	+ 2.1	318	△ 5.4
ユニットレバニュー (円) *1 (売上高/座席キロ)	11.0	10.9	△ 0.6	10.0	△ 6.9
イールド (円) *1 (売上高/旅客キロ)	12.8	12.9	+ 0.8	12.2	△ 2.8
単価 (円) (売上高/旅客数)	14,345	14,992	+ 4.5	14,232	△ 0.3

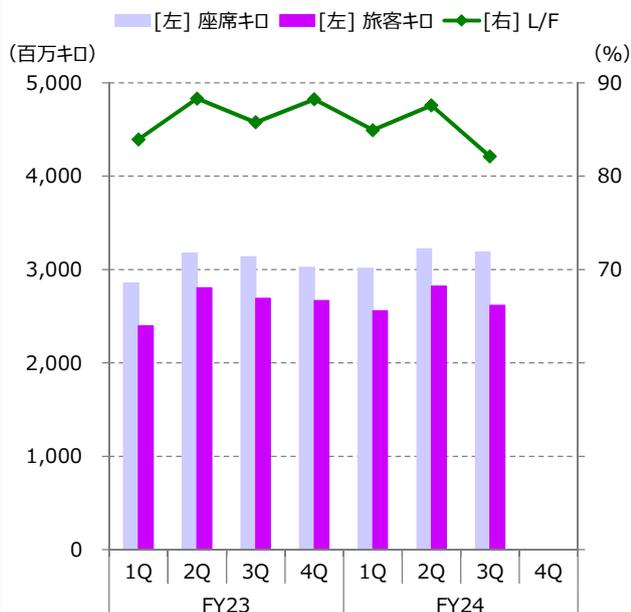
*1 当年度より国内線の区間距離の定義を大圏距離に変更 (前年実績にも変更を反映)

*2 座席利用率のみ前年差

*3 売上高に付帯収入を含む

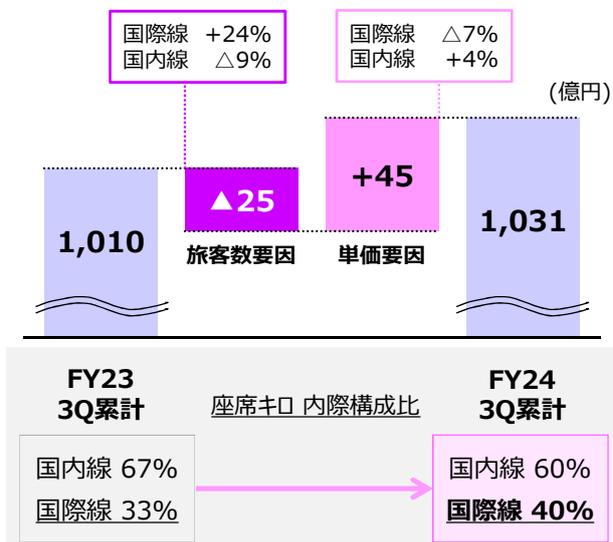
Peach Aviation (事業動向)

四半期別 実績推移 (内際計)



第3四半期累計の概況

国際線のリソース配分を高め収入を最大化



* 当年度より国内線の区間距離の定義を大圏距離に変更 (前年実績にも変更を反映)

©ANAHD2025

28

① Peachの状況です。

右側に第3四半期累計の概況をお示しています。

② 昨年度の下期以降、好調な国際線を強化してきました。

旅客数要因では、国内線の生産量が減少した影響で25億円の減収となりましたが、当第3四半期も、12月から関西－シンガポール線を新規就航するなど、訪日需要を積極的に取り込みました。

③ 単価要因では、足元で国際線の需給バランスがやや緩んでいますが、

国内線の単価向上が寄与し、45億円の増収となりました。

④ 最後に30ページをご覧ください。

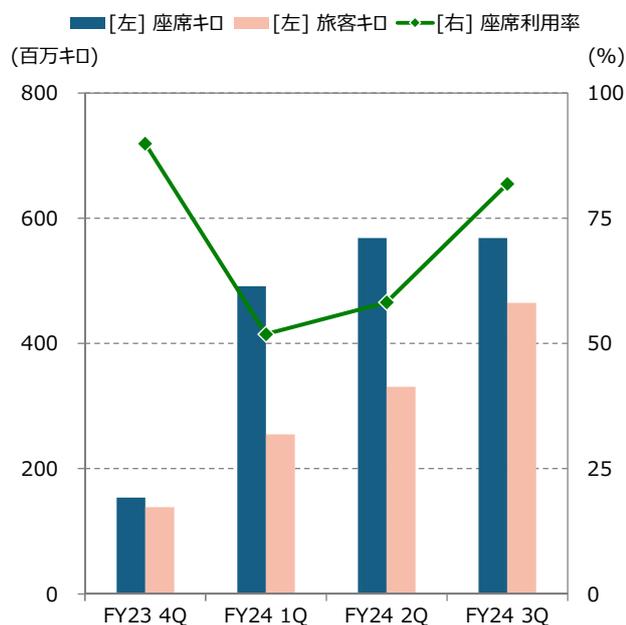
AirJapan

	FY2024 第3四半期累計	FY2024 第3四半期
座席キロ (百万)	1,627	568
旅客キロ (百万)	1,050	464
旅客数 (千人)	296	126
座席利用率 (%)	64.5	81.8
売上高 (億円) *1	79	36
ユニットレベニュー (円) (売上高/座席キロ)	4.9	6.5
イールド (円) (売上高/旅客キロ)	7.5	7.9
単価 (円) (売上高/旅客数)	26,693	29,169

*1 売上高に付帯収入を含む

AirJapan (事業動向)

四半期別 実績推移



第3四半期(10~12月)の概況

1Q 運航品質を安定化

2Q ブランド認知度を向上

3Q 販売競争力を強化

- ✓ 運賃改定などにより、幅広い客層へアプローチ
高需要期を迎えたアジア発訪日需要を取り込み
- ✓ 座席利用率は大幅に改善
1Q 51.9% → 2Q 58.2% → 3Q 81.8%

- ① AirJapanの状況です。
- ② 上期は、運航品質の安定化と、ブランド認知度の向上を図りながら、下期に向けて販促活動を強化してきました。
- ③ 第3四半期は、運賃改定などにより、幅広い客層へアプローチしながら、アジア発の訪日需要を取り込んだ結果、座席利用率は大幅に改善しました。
- ④ 以上が、第3四半期の決算概要です。
第4四半期も、通期の利益計画の達成に向けて、
収入・費用の両面で引き続きマネジメントを徹底してまいります。
- ⑤ 私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

ANA国際旅客 方面別実績 (構成比)

* CY19は新収益認識基準に置き換えて算定

		FY2024 3Q累計 構成比	前年同期差	CY19同期差	FY2024 3Q 構成比	前年同期差	CY19同期差
旅客収入	北米	39.0	+ 0.3	+ 9.3	36.5	△ 0.3	+ 7.6
	欧州	16.6	+ 1.4	△ 3.5	17.6	+ 2.9	△ 2.0
	中国	7.6	+ 0.6	△ 5.9	6.1	△ 0.3	△ 5.5
	アジア・オセアニア	30.6	△ 2.5	+ 0.5	33.6	△ 2.9	+ 0.3
	ハワイ	6.3	+ 0.2	△ 0.3	6.3	+ 0.6	△ 0.6
座席キロ	北米	35.3	△ 2.3	+ 3.6	34.2	△ 3.3	+ 3.2
	欧州	13.5	+ 1.5	△ 3.4	14.7	+ 3.0	△ 1.6
	中国	6.4	+ 1.1	△ 3.0	6.3	+ 0.3	△ 2.8
	アジア・オセアニア	34.8	△ 2.3	△ 0.8	35.1	△ 0.9	△ 1.5
	ハワイ	10.0	+ 2.1	+ 3.5	9.7	+ 0.9	+ 2.7
旅客キロ	北米	37.2	△ 2.3	+ 5.1	34.5	△ 2.6	+ 3.7
	欧州	14.2	+ 1.4	△ 3.0	15.2	+ 2.7	△ 1.6
	中国	5.5	+ 1.4	△ 3.4	4.8	+ 0.4	△ 3.0
	アジア・オセアニア	34.8	△ 1.3	+ 0.4	37.2	△ 1.5	+ 0.7
	ハワイ	8.3	+ 0.9	+ 0.9	8.3	+ 0.9	+ 0.2

ANA国際貨物 方面別実績 (構成比)

* CY19は新収益認識基準に置き換えて算定

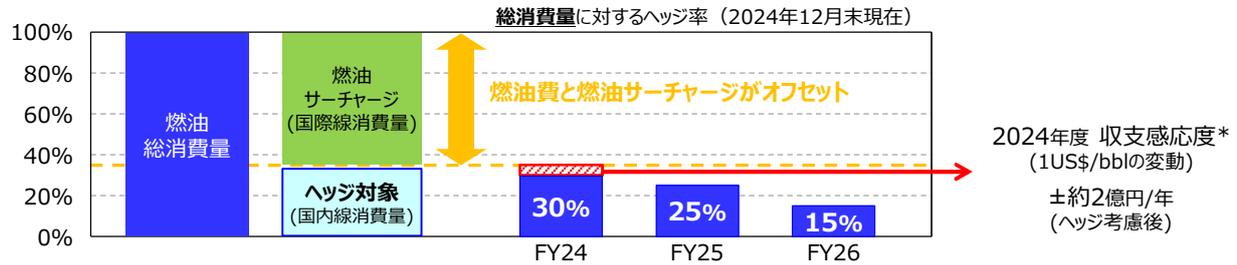
		FY2024 3Q累計 構成比	前年同期差	CY19同期差	FY2024 3Q 構成比	前年同期差	CY19同期差
貨物収入	北米 (ハワイを含む)	51.5	+ 8.6	+ 16.0	54.2	+ 6.6	+ 19.4
	欧州	8.1	△ 1.0	△ 7.1	8.2	△ 0.2	△ 7.5
	中国	19.8	△ 3.4	△ 2.5	18.4	△ 3.5	△ 4.4
	アジア・オセアニア	19.1	△ 4.1	△ 4.3	17.9	△ 2.7	△ 5.2
	その他	1.5	△ 0.1	△ 2.1	1.3	△ 0.2	△ 2.3
有効貨物 トンキロ	北米 (ハワイを含む)	49.8	+ 1.7	+ 6.4	49.9	+ 0.1	+ 7.9
	欧州	7.8	+ 1.4	△ 5.5	8.6	+ 2.5	△ 6.3
	中国	14.6	+ 0.6	+ 0.9	14.3	+ 0.7	+ 0.8
	アジア・オセアニア	27.4	△ 3.7	△ 0.3	26.7	△ 3.3	△ 1.0
	その他	0.4	+ 0.0	△ 1.4	0.4	△ 0.0	△ 1.4
有償貨物 トンキロ	北米 (ハワイを含む)	50.8	△ 0.5	+ 8.7	50.1	△ 2.2	+ 9.5
	欧州	10.1	+ 0.3	△ 7.9	11.3	+ 2.1	△ 7.4
	中国	13.8	△ 0.2	+ 0.6	13.8	△ 0.0	+ 0.2
	アジア・オセアニア	24.5	+ 0.4	△ 0.2	24.1	+ 0.2	△ 1.0
	その他	0.7	△ 0.0	△ 1.3	0.7	△ 0.0	△ 1.3

燃油・為替ヘッジの進捗状況 (ANA)

1. 燃油ヘッジ 基本方針

- 1) 国内線消費量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)
- 2) 国際線消費量は原則としてヘッジ対象外 (燃油サーチャージで対応)

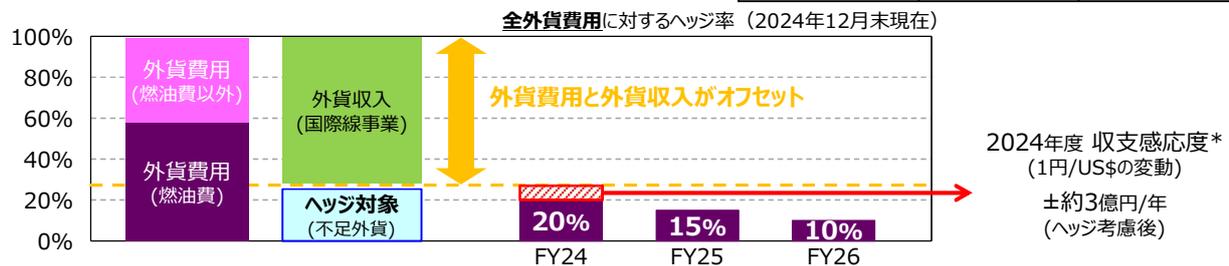
(US\$/bbl)	FY24 3Q累計実績	FY24 4Q前提
トバイ原油	80.3	75
シンガポールケロシン	94.4	90



2. 為替ヘッジ 基本方針

- 1) 不足する外貨量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)

(円/US\$)	FY24 3Q累計実績	FY24 4Q前提
ドル円レート	152.3	155



航空機数

	FY2023 期末	FY2024 第3四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
Airbus A380-800	3	3	-	3	-
Boeing 777-300/-300ER	18	18	-	9	9
Boeing 777-200/-200ER	10	10	-	10	-
Boeing 777-F	2	2	-	2	-
Boeing 787-10	5	7	+ 2	6	1
Boeing 787-9	43	44	+ 1	38	6
Boeing 787-8	35	34	△ 1	31	3
Boeing 767-300/-300ER	15	15	-	15	-
Boeing 767-300F/-300BCF	9	6	△ 3	3	3
Airbus A321-200neo	22	22	-	-	22
Airbus A321-200	4	4	-	-	4
Airbus A320-200neo	11	11	-	11	-
Boeing 737-800	39	39	-	26	13
De Havilland Canada DASH 8-400	24	24	-	24	-
ANA 計	240	239	△ 1	178	61
Airbus A321-200neoLR	3	3	-	-	3
Airbus A320-200neo	15	17	+ 2	-	17
Airbus A320-200	19	16	△ 3	-	16
Peach Aviation 計	37	36	△ 1	-	36
Boeing 787-8	1	2	+ 1	2	-
AirJapan 計	1	2	+ 1	2	-
グループ計	278	277	△ 1	180	97

航空事業以外のセグメント

(億円)	航空関連事業			旅行事業		
	FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年差	FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年差
売上高	2,092	2,432	+ 340	592	549	△ 42
営業利益	96	37	△ 58	13	△ 1	△ 14
減価償却費	30	30	+ 0	3	6	+ 2
EBITDA (営業利益+減価償却費)	126	68	△ 58	16	4	△ 12
EBITDAマージン(%)	6.1	2.8	△ 3.3pt	2.8	0.8	△ 2.0pt

	商社事業			その他		
	FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年差	FY2023 第3四半期累計	FY2024 第3四半期累計	前年差
売上高	867	975	+ 108	287	321	+ 33
営業利益	42	39	△ 3	7	10	+ 3
減価償却費	7	7	+ 0	1	1	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	49	46	△ 3	8	12	+ 4
EBITDAマージン(%)	5.7	4.8	△ 1.0pt	2.9	3.9	+ 1.0pt

(Memo)



(Memo)



(Memo)



グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
 私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めています
 私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ワクワクで満たされる世界を

私たちは、空からはじまる多様なつながりを創り、
 社員・お客様・社会の可能性を広げていきます。

グループ行動指針
(ANA's Way)

私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)
安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)
常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)
誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)
多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)
グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、感染症の継続・拡大、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 → I R 資料室 → 決算説明会資料

A N Aホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・I R部

Eメール : ir@anahd.co.jp